

登山月報



2016年 みんなで山を考えよう!
8月11日 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

第70回国民体育大会紀の国わかやま国体山岳競技会	2
第85回 Mountain World	5
新連載 「山の日」制定記念—ふるさとの山に登ろう—	6
第4回関東地区山岳連盟自然保護交流会開催報告	7
第6回自然保護指導員研修会・公開講演会	7
UIAA/UAAA 総会報告	8
トピックス	10
ネパール大地震救援募金の第1次募金報告	12
JMA、寄贈図書、編集後記	13

東日本大震災復興支援

第70回国民体育大会紀の国わかやま国体山岳競技会

—— 躍動と歓喜、そして絆 ——

9月末の関東、東北地方を襲った豪雨や自然災害により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて東日本大震災復興支援「第70回国民体育大会紀の国わかやま国体山岳競技会」—躍動と歓喜、そして絆—が、秋空の下10月3日～5日の3日間にかけて和歌山県立南部高等学校山岳競技会場、みなべ町立南部小学校体育館山岳競技特設会場を競技場として開催されました。

リード競技は、同高校校内南東に既設されているリードウォールを使用し、ボルダリング競技は、同小学校体育館に設置されたボルダリングウォールで実施されました。

本大会開催直前の9月28日には、「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」が東京オリンピック追加競技として、「スポーツライミング」をはじめ5競技18種目をIOC(国際オリンピック委員会)へ推薦することを決定し、本競技会への注目度が一段と高まりました。そのため、マスコミ・報道関係者へ、アイソレーションゾーンを含む競技エリアでのカメラ撮影を認め、競技の公開性を高めるとともに、国体後催3岳連・協会へも「視察員腕章」を配布し、競技エリアへの立入りを人数的制約はあるものの公開しました。

本競技会には、三笠宮覚仁親王妃信子殿下のご観戦を賜るとともに、鈴木大地・スポーツ庁長官、原博美・



鈴木長官視察

(公財)日本体育協会常務理事・国体委員長をはじめ、大会3日間を通じて、延約13,700人(L:7,200人、B6,700人)の来場者があり、特にマスコミ関係者48社71人、視察員99団体267人と多くの皆様のご視察、激励をいただきました。

この度の競技会においても、多くの中学生の出場がありました。少年男子では、9名、少年女子では、10名が出場し、中学生のみのチームが少年男子で2チーム、少年女子で3チームの出場がありました。年々ジュニア層の参加が増えるとともに、その実力も上がってきています。

今年度の成績は昨年度のような中学生2名によるチーム入賞は果たせませんでした。1名の中学生を擁しての2種目入賞がそれぞれで2チーム(計4チーム)ありました。ジュニア層の育成が進んでいるものと感じました。

その選手を競技力の面からサポートする、「トレーナー」は全体で16名の帯同がありました。競技会やトレーニング等でのアクシデントに対応できる仕組みが出来つつあると感じました。

リード競技では、判定異議申告は3日間で9件ありました。高度判定、ハンガー仕様に關するものでした。また、テクニカル・インシデントが1件発生し



再アテンプトを行いました。

完登された中で、成年女子で大田理裳選手（山口県）、少年男子で緒方良行選手（福岡県）は昨年の長崎国体決勝から2年連続でした。

ボルダリング競技では、判定異議申告は3日間で8件でした。内容は、スタートのやり直し、ホールド保持、終了点の範囲、競技時間集終了間際の判定に関するものでした。

成年女子の決勝において、選手が落下の際足首を捻挫をするアクシデントがありました。治療後、選手から無理をしないとの申し出を了承し、リード競技決勝への出場を認めました。

完登された中で、予選、決勝ともに完全一撃が少年女子で野中生萌選手（東京都）により達成されました。昨年の長崎国体から2連覇となりました。おめでとうございます。

なおリード、ボルダリングの2種目予選とともに完登されたのは、成年男子で榑崎智亜選手（栃木県）、成年女子で大田理裳選手（山口県）、少年男子で波田悠貴選手（埼玉県）でした。榑崎智亜選手、大田理裳選手はリード決勝においても完登されました。

男女総合成績（天皇杯）第1位は、埼玉県で全種別からの得点を得て実力を発揮しました。女子総合成績（皇后杯）は昨年度の長崎国体で地元を沸かした長崎県が、完全優勝を狙う埼玉県を抑えての堂々の第1位となりました。

開催県である和歌山県は、選手強化と国体運営を担いながらも成年男子、成年女子のボルダリング種目において得点を獲得し、少年男子、少年女子においては次代を担う選手強化も図られ、大いに競技場は盛り上がりました。さらなるご活躍をご期待いたします。

今年も昨年同様に、リード、ボルダリングともに決勝に残ったチームが多く、成年男子で4チーム、成年女子で6チーム、少年男子で7チーム、少年女子で7チームでした。少年については総合的な競技力が求められる

結果となりました。

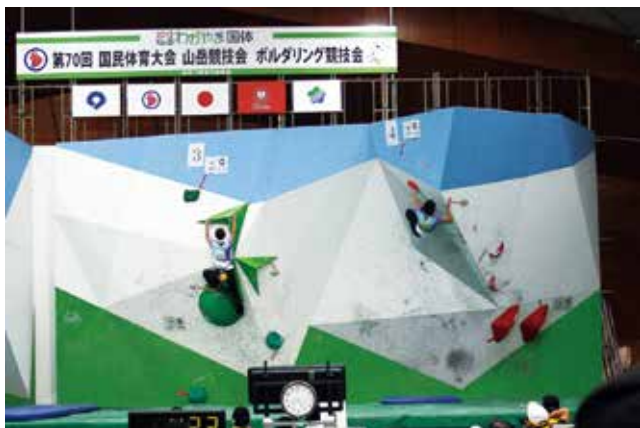
種目得点を獲得したチーム数は、天皇杯24都道府県、皇后杯17都道府県となりました。その一方で、従前よりブロック大会への参加を強く促していましたが、参加得点「0点」が1県あり、参加得点は必ず獲得していただきたいと思います。今国体においては、不参加種別は12から7に改善されました。しかしながら、ブロック大会不出場が成年女子で3県（2年連続1）、少年女子で4県（同2）ありました。

今年も都道府県予選会報告、ブロック大会開催岳連が提出するブロック大会報告がそれぞれ大会終了後10日以内の提出が行われていない事例もありました。この報告は、出場する、選手・監督の資格審査に重要な資料となりますので期日を守っていただくよう、指導者、山岳連盟、山岳協会の皆様のご協力をお願いいたします。また、ブロック大会開催にあたっては、開催要項等が作成した折は本協会へも一部ご送付をお願いいたします。

今年度より監督資格について、ブロック大会、本国体と種別変更が可能となり、4月の競技委員総会において説明を行いました。一部の岳連よりさらなる問合せがありました。なお「公認指導者資格の監督資格特例」が、今年度で終わり、今後は「資格更新義務研修」受講や更新手続きについてお願いいたします。

監督会議を利用して、9月28日の「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」発表について詳しく説明を行いました。その後、アンチ・ドーピング研修会を開催するなど、指導者への情報を提供や教育・啓発を行いました。

監督会議前受付において、「選手・監督カード写真未添付」が2チームありました。また、宿舎と同じ場所での受付にもかかわらず、受付時間を過ぎての受付をしたチームがありました。その「選手・監督カード」の選手枝番号が参加申込みと違っていたチームが2チームありました。名簿とは左右違う選手が競技を行う結果となりました。



計画輸送後受付を行わず、コンビニに買い出しや受付後にアイソレーションから出るチームがいました。いずれも、イエローカードに匹敵する行為であるとともに、運営側においても周知方法やチェック体制への再構築が求められる結果となりました。

リハーサル大会での指摘があった、ボルダリング競技場と実施本部間の通信連絡体制は改善されず、成績表が遅延した場面がありました。

最終日には総合成績表の配布ができず、WEB上ではいち早く公開はいたしました。3日後に全国に発送する結果となりました。

今回の経験を糧に、競技部全体として次年度開催や選手、監督の参加への心構えとして捉えていきたいと思っています。

さて競技会場では、町内より10団体が「おもてなしコーナー」で南部高校発祥の「南高梅」をはじめ特産品などの振舞いや、競技場となった同高校や田辺高校の生徒約150人が競技補助員として、競技会を支えていただきました。ありがとうございます。

さらには、ボルダリング競技で使用した施設がみなべ町のご英断により、旧清川中学校体育館に移設され、選手強化、普及の拠点となることになりました。感謝申

上げます。

本協会は、競技スポーツのみならず生涯スポーツとしての山岳競技=スポーツクライミングをさらなる発展させ、スポーツの頂きであるオリンピック競技へと邁進してまいります。より一層のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、競技会の成功にご尽力いただきましたみなべ町国体実行委員会、競技場をご提供いただきました和歌山県立南部高等学校、みなべ町立南部小学校、生徒、教職員、同窓生や競技運営を担っていたいただきました和歌山県山岳連盟のみなさま、さらには大会に参加された選手、監督、審判団や競技運営役員等々のみなさまのご支援、ご協力に感謝申し上げます。

(競技運営委員長 西原斗司男)

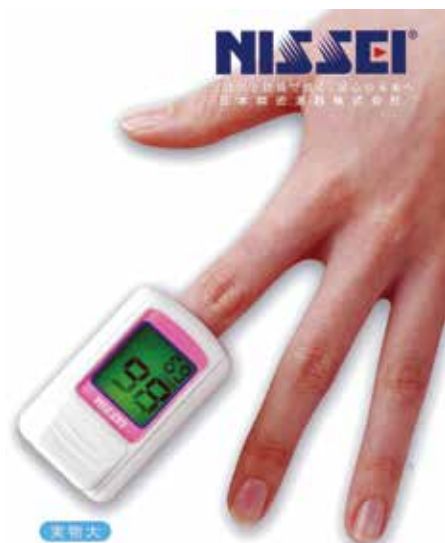
【総合成績】

天皇杯 (男女総合)		皇后杯 (女子総合)	
1 位	埼玉県	1 位	長崎県
2 位	山口県	2 位	埼玉県
3 位	千葉県	3 位	愛知県
4 位	長崎県	3 位	山口県
5 位	北海道	5 位	東京都
6 位	大阪府	6 位	千葉県
7 位	栃木県	6 位	静岡県
8 位	福岡県	6 位	鳥取県
8 位	佐賀県		

第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 おめでとうございます。

弊社ではパルスオキシメータ（経皮的動脈血酸素飽和度計）“パルスフィット BO-600”を**格安**の値段で提供させて頂いております。ご希望の方は、下記までお申込み下さい。

**1.8万円!!
ポッキリ**



田中産業株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-16-3 電話：03-3814-7181

第85回 Mountain World

秋のヒマラヤ登山 第2報

池田常道

前号に引き続いて、秋の後半に行われたおもな登攀をお伝えする。

ウクライナのニキータ・バラバノフとミハイル・フォルミンが11月2日、カンチェンジュンガ山群のタルン・ピーク(7439m)北ピラーを初登攀した。ふたりは、故国の不安定な情勢にもめげず、昨年にはランシサ・リ(6412m)北西壁を初登攀するなど意欲的な登攀を繰り返している。今回の北ピラーは2012年に英国のギャビン・パイクらが試みたルートで、13年にはチェコのマレク・ホレチェックとズデニェク・フルビーもトライ。ドライ・コンディションでピラー下部の氷雪が落ちていたため左手の北北西ピラーを登っている。今回のルートは標高差1700m、M6 AI6 A3と報告されている。

チャムラン(7319m)ではアルベルト・イニユラテギ、ファン・バリェホ、ミケル・サバルサのスペイン・バスク隊が北壁を断念後10月18日に西稜から登頂した。1986年に酪農学園大学隊(新谷暁生隊長)が初登攀したルートである。一方、北壁の単独登攀を目指した今井健司(33)は11月3日、6500m付近を登攀中の姿が確認されたのを最後に消息を絶ってしまった。その後10日になって5500m付近でザックと靴が発見されたが、それ以上の消息はない。

タウツェ(6541m)ではアメリカのジャスティン・グリフィスとスキー・デトレイが北バットレスを登った。北壁の左手にあたるラインで、不思議なことにこれまで登られずに残っていたもの。11月9日から14日の6日間で初登攀したふたりだったが、東面ガリーを下降中にグリフィスが転落死。ロープを解いた容易な斜面での事故だったという。

昨年5月に解禁された104座のなかにはヒラリー、テンジン、エルゾーグ、ラシュナルなど著名登山家の名前を冠したピークが少なくない。そのひとつ、バーク・カン(6942m)はゴーキョ谷奥にある無名峰だが、「バークって誰?」と誰もが疑問を抱く。その人物(Bill Burke)は米国人で8年続けてネパールに通い、エヴェレストには南北から6回挑戦、2009年に67歳でサウス・コルから、14年には72歳でチベット側から頂上

に立った。アジア人以外での最高齢登頂記録保持者である。最高齢というなら、80歳で登頂した三浦雄一郎のミウラ・ピークとしてもよさそうなものだが、格別の貢献でもあったのであろうか。ちなみにバークは、自分の山のあるゴーキョ谷を訪れたことはなかったという。そのバークは、さっそくガイドのギャレット・マディソンに7人の隊を組織させ、自ら初登頂に挑んだ。しかし、10月28日にBC入りしたものの、登山のほうは「登れそうもない岩壁に遭遇」して「頂上まで数百フィート」を残してあえなく敗退に終わった。

ザサンバツェ(6293m)はチベット国境にあるナンパイ・ゴスム南面の支峰で、これまでも高所順応の一環として2回登られてきた。フランスのピエール・ラブルとマチュー・メイナディエはナンパイ・ゴスムⅡ峰(7321m)南壁を目ざして入山したが、極端なドライ・コンディションのため断念。代わりにこのピークの北東壁を10月17日に初登攀した。同僚のマチュー・デトリとジュリアン・デュセールも翌日このルートから頂上に立った。北東壁は標高差700m、TD+、WI4のラインである。

インドではマルコ・プレゼリ、ウルバン・ノヴァク、マニュ・ペリシエ、ヘイドウン・ケネディのスロヴェニア＝フランス＝アメリカ隊がセロ・キシウトワール(6173m)東壁を初登攀したピークで、名前の由来は山容がパタゴニアの岩峰を思わせることから。1980年代末から90年代初めにかけて英国クライマーが挑戦を繰り返した末、93年にミック・ファウラーとスティーブン・サスタッドが北西壁から初登頂した。今回の4人は9月27日から29日、チョモチオール(6278m)に南稜から第2登。10月5日から8日でセロ・キシウトワール東壁を初登攀した(ED+、1200m、5.11 WI6 M6 A2)。ルート名はLight before Wisdom。



セロ・キシウトワール東壁。日射で緩んだ急峻な氷壁を登る。マルコ・プレゼリ提供

「山の日」制定記念

—ふるさとの山に登ろう—

愛知県・猿投山&茶臼山

愛知県には1,000 m前後の山が多くあり、日帰り登山として県民に広く親しまれている。その中でも特に賑わっている猿投山(さなげやま)と茶臼山を紹介します。

猿投山は、名古屋市の近郊にあって、車で1時間で行ける豊田市の最北に位置する海拔629 mの山で、老若男女を問わずいろんな人に登られている。

猿投山の山名の由来は、登山口にある猿投神社の祭神12代景行天皇が伊勢の国に来られたとき、ペットとして連れていた小猿に穢れがあり、これを嫌って海へ投げ捨てたところから、猿投山といわれるようになった。とあり他にも諸説が幾つかあるようで、本当の命名は定かでない。

登山口は神社裏の駐車場から舗装された林道を歩く。途中、観光用に作られたトロミティの水車があり、20分歩けば東海自然歩道の登山口に着くが、丁度いいウォーミングアップになる。

登りはじめはいきなり階段状の急な坂道で、初めての人にはこの先不安にさせるが、せいぜい5~6分頑張れば終わり、あとはなだらかな道で、春にはショウジョバカマやヤマツツジが咲き、谷間からウグイスの鳴き声がしきりで、長閑な気分で歩ける。

20分程でまた急な凹凸道だが、これも8分ほどで終わり、登り終えたところに休憩所が設けてある。休んでいるといろんな人が寄っていく。ファミリーや中高年者、以外と若者のカップルも多く、また、トレーニングに走っている元気者もあり楽しめる。

休憩所から10分程でベンチがあり、その右側に見落としそうな細い道を登ると展望台がある。東方に茶臼山などの山並みがつづき、その背後に南アルプスが連なり、この場所から元旦に日の出を拝むため多くの人がやって来る。展望台で満喫して下ると元の登山道に合し、いったん車道に出るが、ここには最近作られた立派なバイオトイレがある。すぐ横の鳥居を潜って登り出すと、東の宮まで緩やかな道がつづき、途中のヤマザクラやツガの古木は豊田市の名木に指定されており、静かな樹林帯を心地良い気分で歩ける。

東の宮が見え出すと、西の宮へ通じる道と分けるが、猿投山の山頂へは西の宮を敬遠し、そのまま東の宮を通って行く。ずっと東海自然歩道の歩きいい樹林帯だが、秋はシロモジの黄葉が綺麗で、20分で一等三



萩太郎山から見る茶臼山

角点の山頂に到着する。麓からゆっくり歩いて2時間の行程だ。

山頂には沢山のベンチがあり、一角には人目につかぬよう、猿投山を愛する人たちの山行回数を記録する掲示板がある。また、山頂では御嶽山や遠く白山が望め、特に雪景色の眺望には心が惹かれる。

休憩していると、いろんな登山道から人が登ってくる。2005年に開催された地球博会場になった`海上の森、からの散策コースや瀬戸市方面から雲興寺を起点にしたコースがある。雲興寺は約600年前に開山された禅寺で、山門の前に東海自然歩道の案内板が設置してある。

ただ両コースとも長く時間がかかるので、山馴れした人向きのコースだろう。それに愛知県山岳連盟が主催する山岳マラソンや登山教室も毎年この猿投山で行われている。

次に茶臼山は、長野との県境にあり愛知県の最高峰(1,416 m)の山で、対面する萩太郎山が春は芝桜、冬はスキーで賑わい、山麓周辺は各種のレジャー施設が整備され、多くの県民が出かけて行く。

マイカーで国道257号から茶臼山高原道路(無料)を終点まで行くと、矢筈池周辺には第4駐車場まであり、そこが登山の起点となる。

コースは、西側からの登山ルートとコテージ前から雨乞洞、雷岩を通って行くルートがあり、いずれも森の中を野鳥の囀りに癒されながら約1時間で頂上に着ける初心者、ファミリー向けの山である。

このように手軽に登れる猿投山や茶臼山は季節を問わず、ハイキングやトレーニングなどで大勢の人で賑わっている人気の山である。

(愛知県山岳連盟広報担当 中平等新一)

第4回関東地区山岳連盟 自然保護交流会開催報告

10月31日(土)～11月1日(日)、茨城県山岳連盟自然保護委員会の主管及び、日立市の後援にて、第4回関東地区自然保護交流会が、1都8県の自然保護指導員及び日山協自然保護常任委員の総勢45名の参加にて日立市にて行われた。

「自然を尊び、愛し、親しもう」と云う理念の元に、各県の現況などの情報を交換し、日立製作所の発祥の地となり、その基礎を築いた「日立鉱山」の諸問題と共に、その遺跡の見学、又日本最古、5億年前のカンブリア紀が観察できる日鉱記念館など、茨城岳連のスタッフによる2日間の案内で、内容の濃い、交流会となった。

初日は日立市立会瀬(オオセ)青少年の家を会場に、茨城岳連自然保護委員長・中沢隆一氏、常任委員・田上正敏の司会により、日山協・仙石富英常務理事の挨拶で、第1部が基調講演と第2部交流会を第1日目、神峰山などエキスカッションを第2日目とし開催された。

第1日目の第2部の基調講演では、講師に茨城岳連、元会長・金沢信二氏を招き、「日立鉱山大煙害～公害問題の先駆け、煙害を克服した人々～」との演題で1時間ほどの講演となった。講演概要は次の通り。「4大銅山のひとつに数えられる日立鉱山(明治38年創業)も、亜硫酸ガス(SO₂)による煙害が深刻で、環境改善に向け、大煙突(当時画期的とされた高さ155.7mの煙突によりガスの拡散を図る)と神峰山頂の気象観測所の施設建設や、煙害地への大規模な植生回復事業、住民の煙害補償の交渉などが膨大な企業努力が行われた。現代のCSRの原点といえる。」— 公害の克服に向け、企業と地域の共存共栄や自然回復の中で奔走した人物列伝を伺い、自然保護をキーワード奔走した人々の厚い思いを感じさせる講演となった。

第2部は日山協、松隈自然保護委員長、茨城県岳連会長・二階堂章信の挨拶を受け、各都県の自己紹介及び活動報告を取り混ぜ、参加者の全てが発言し意見交流を行い、夕方5時過ぎまでの実り多い交流会となった。

2日目は6時半、起床、朝食後、日鉱記念館へ移動、途中、大煙突(現在は54mを残して崩壊)を見学、日立鉱山が閉山するまでの76年間の活動した、展示物などを見学した後、今日の目的地、神峰山(かみねさん)598mにハイキングしました。頂上から南西面の向かい側には、花の100名山で有名な高鈴山(623m)が在り、イワウチワが自生しているという。阿武隈山地の南端に位置する神峰山は首都圏からの日帰りハイキングのコース



でも知られていますが、旧日立鉱山が操業していた場所でもあります。山頂にも気象観測所を設置して、風向きによっては、大煙突からの排煙(操業の調整)を調整したようです。山肌の回復の為に、耐煙性に強いオオシマザクラ、オオバヤシャブシ、ヒサカキなど植林活動のあとが見られて、記念館での説明に納得した次第です。下山後、茨城岳連スタッフの方々に見送られての、散会となった。

(記 自然保護副委員長 西山常芳)

第6回自然保護指導員研修会・ 公開講演会

第6回自然保護指導員研修会・公開講演会が、11月7日(土)午前、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、主催／(公社)日本山岳協会、主管／(公社)東京都山岳連盟にて開催され、自然保護指導員既登録者・希望者などの参加者とスタッフを合わせて70名が参加した。

西山都岳連自然保護委員長から主管挨拶の後、松隈日山協自然保護委員長からは主催挨拶を兼ねての自然保護指導員制度についての説明を皮切りに、都岳連岡田副委員長からのトレラン大会の利用ガイドラインの動向について、参加都県3団体から活動状況、都岳連からフィールドレポートについて、それぞれ5件の報告が行われ、次いで、元国立公園レンジャーの森孝順氏から「自然公園の現状と課題」との演題で基調講演を拝聴し、3時間ほどの座学中心の研修となった。

指導員制度についての説明の中で、地球温暖化など国境を越えた環境問題も多く「Think Globally, Act Locally」(地球規模で考え、足元から行動せよ)の言葉が自然保護指導員の基本姿勢であるとの発言があった。トレランガイドラインについての報告では、環境省や東京都の各自然公園の利用規約の制定で一定の線が示されたことが、自然環境が健全に維持・利用の改善に奏功



することを願うと報告した。各都県の状況報告では夫々の自然保護委員会が企画する団体活動へ指導員の積極的な参画を促し活動の盛り上げを期待するとした。都岳

連で独自に行っているフィールドレポートの事例を説明し、入山時の動植物など記録を残すことに多くの協力を促した。

基調講演では、冒頭に日本の水の良さが世界有数で、それが自然に恵まれた環境の証である。こうした自然を未永く後世に伝えることが必要と前置きし、国立公園で起きている様々な問題のうち、森林の荒廃、生態系の異変、入山者のルールとマナー、3点に絞った講演となった。最後に、様々な問題について自然保護指導員の個人での対応でとても難しいが、それぞれの山での活動の一つ一つが、良き手本となり一歩でも前進することを願うものとのアドバイスで講演を締めくくった。

(記 自然保護副委員長 西山常芳)

UIAA UAAA 総会報告

UIAA (国際山岳連盟) と UAAA (アジア山岳連盟) の総会が同時期に韓国ソウルで開催された。UIAA ではそれに先立って理事会も開催されている。本稿では従来別々に報告したものを同時に記述する。どちらもトピックスのみ報告する。

- 日程 2015年10月20日(火)～26日(月)
- 場所 韓国ソウル 世宗ホテル(UIAA) オリンピックパークホテル(UAAA)
- 日本からの参加 UIAA 理事会：神崎顧問、小野寺、UIAA 総会：神崎顧問、国澤顧問、八木原会長、小野寺、UAAA 総会：神崎顧問、国澤顧問、八木原会長、小野寺

I. UIAA 報告

日程として20日午後：非正規理事会、21日全日：正規理事会、23日全日：総会であったが、同じ議論もあり、報告の都合上、一度に報告する。また、22日は韓国・国立山岳博物館の見学であり、後述する。

理事会においては、最大の会員保有国ドイツ、及び南アメリカ代表(チリ)は欠席であった。特に後者は何度も欠席しており定款上、空席となる。総会は32か国、95人の出席であった。

1-1 名称変更

UIAA そのものはフランス語の略であるが、英語名として今までは International Mountaineering & Climbing Federation としていた。3月の理事会から出ていたことであるが、この名称を Climbing を前にして、Mountaineering を後にすることになった。ま

た、Federation を Association にする、という意見もあったが、これは Federation そのままにしておき、IOC によって認められた climbing & Mountaineering の global authority (直訳で世界的権威) とした。また UIAA の目的も「目的と仕事」ではなく、mission (使命) とした。そしてオリンピック憲章に則り競技大会にも力をいれる、とした。

UIAA はアイスクライミングに力を入れており、担当の EB (Executive Board / 執行部) もいる。2014年のソチはショーケース、2018の韓国もショーケース予定であり、2022年中国開催では種目化を狙っている。SC (スポーツクライミング) に触発されていることは明らかである。

1-2 年間会費是正に関して

南アメリカからの提案である。現行の会費は最低で1300 CHF (スイスフラン)、会員数100万人を有するドイツは約23,000 CHF の支払い、因みに日本は45,000人会員との申告に対して7,000 CHF を支



理事会風景

払っている。横軸に会員数、縦軸に会費の表を作ると10万人未満の会費直線は傾斜が急で、10万人以上は緩い傾斜になっている。ヨーロッパなど会員数が数10万人でも、10万人以下の国とそんなに変わらない。寧ろ、10万人以下の国が圧倒的に多く、またGDPも低く(南アによると)、会費支払いが容易ではない。従って会費設定構造を変更すべきであるとの提案である。これを聞いて日本は早速、アジアの国々を引き合いに出して、UIAA, UAAAに入りたい国が沢山あるのに、会費が高く入れない国が沢山ある。もっと会費を安くして、単に会費の問題だけでなく登山の振興、普及発展に努めるべきとの発言を行った。そしてUAAA, UIAAと強調してWGを作ってはどうかと提案した。複数の国が発言、途中ブレークが入った。この間にも南アと会長のFritsが話し合っていたが、事務局長のHeleneがこちらに来て、WGについて日本参加の話が出ていると耳打ちしてくれた。そして再開し、南アがWG発足について意見を述べ、「日本も興味あるだろう」とのことでOKの返事をした。その時点ではスイス、ニュージーランド、南ア、日本がメンバーとなり、さらに南アの要望で経済の専門家も入れてWGの発足が決まった。具体的活動はこれからになるが、電子メールにて意見交換を行うことになる模様。

1-3 UIAA役員について

(1) EB選挙

韓国に到着した夜に次のような話を聞いた。現在インドが立候補している。それは既に各理事には通知されている。しかし2022年の冬季オリンピックのことを考えると中国(CMA)になってほしく、Fritsは既に打診しているが返事がなく困っているとのこと。従って通常は理事会で提案後、総会に諮るのであるが、今回は理事会には時間切れを理由に提案しなかった。ただ、インドは残念ながらUAAAにも加盟しているが参加もせず会費も数年未納入である。

さて、総会当日インドの所信表明が終わった後、日

本が質問した。インドはUIAAだけでなくUAAAにも加盟している。それなのにUAAA会議にも参加せず、協力もしていない。そんなことでUIAAのEBが務まるのかと。そして台湾(CTMA)のHank氏が興奮して手を挙げた。この方はUAAAでは会計担当である。そしてUAAA会費未納について厳しく追及した。日本は今までのことを改めれば賛成するよ、と言って採決時には賛成に回ったが、全体的に少ない。反対も少ない。秘密投票したらどうかとの意見もあったが、最終的にインドが立候補自体を取り下げた。

ただ、この後の夕食会終了後インドが出口で待っていて話をしたが、穏やかな顔つきであった。

(2) MC (Management Committee) 選挙

前述のように南米は空席のままである。神崎顧問が任期一年を残して八木原会長に理事職を譲りたいとのこと事前にFritsやHeleneにも連絡しており残任期間として一年間ではあるが選挙になり問題なく当選した。その後南アから1年と言うことは定款には書いていない。4年が妥当との提案がなされ、スイス代表のFrank(スイスの弁護士、UIAA定款はスイスの法律に基づいている)もそのことを議長(Frits)に説明、採決やり直して、賛成多数で4年と言うことで当選した。「Mr. 4 years」とニックネームがついた。

1-4 その他

(1) COP 21宣言

CAI(イタリア山岳会)が政府と共に参加表明した。

(2) Sky run

前回の理事会ではSky-run連盟の会長がUIAAの副会長としてEBに参加とのことであったが、今回は単にSky-runの代表者がEBメンバーにはなるものの投票権は与えられなかった。

(3) 財政報告、スポンサーシップ

例年通りの報告で、財政規模は700,000CHFで約1億円弱である。

中米最高峰に登り、マヤ遺跡やカリブ海を訪れる“中米の山旅”決定版

**中米最高峰タムルコ(4,220m)登頂、
密林に眠るティカル遺跡満喫とカリブ海 11日間**

発着地 **東京** 旅行代金 **¥648,000**

出発日 **2/15(月)・3/22(火)**

※燃油サーチャージ(2015年11月20日現在:目安約21,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

登山者の安心安全を守る!

画期的アイテム新登場 **ブザー付GPS搭載端末** **位置が分かる**

みんなの安心安全を守る **みまもり犬まもる**

▶ 遭難や事故時に救難メール
▶ 家族にワンッシュ安否報告
▶ いつでもリアルタイム検索
▶ あとから足取り確認

株式会社ドンデ **03-6326-0407**
support@donde.jp

詳しくはWEBで **http://mamoru.donde.jp/**



参加者集合写真

(4) Rock Climbing WG

ヨーロッパの数人のメンバーが中心になり、新たなWGが誕生した。

(5) Mountain Protection Award

ネパールのカンチェンゲンガ付近で活動しているK T K Belt projectが選ばれた。

1-5 来年の予定

春の理事会はアゼルバイジャンのBaku、秋の理事会・総会はイタリアのBrixenである。

II. UAAA報告

最終日の10/25(日)に開催された。注目されたインドは欠席であった。UIAAとは違ってこちらは比較的和やかな雰囲気である。

2-1 各団体からの報告

JMAは例によりパワーポイントを用いてオリピックにSCがノミネートされたことなどについて報告した。当初は事前に送っていたファイルが破壊されており一時発表が危ぶまれたが、何とか修復出来た。数人からよかったよ、と言われた。

この中でCMAの発言が興味深かった。例年英語を話せる担当者は来ないのであるが、今回は出席した。その中でやはり、UIAAからEB就任の依頼があったことを報告した。そしてUAAAの承認を取ってから立候補するつもりだとも言ってくれた。仁義を切った訳である。

2-2 神崎顧問がUAAAアドバイザーとなる

これはUAAA会長のInjeong Lee氏からの推薦である。UAAA創立以来の貢献に榮譽を表したいとのことであろう。当初、神崎顧問は何度も辞退した。八木原会長も神崎顧問の言う通りで、辞める時はスパッと辞めた方がよいとのことで、神崎顧問を支持する立場に回った。しかし、最終的には引き受けた。

2-3 その他

(1)

例により、モンゴルであるが国内のごたごたをUAAAに持ち込んで3つある団体のうち1つはUIAA、1つはUAAAなどいろいろ入っている。UIAAに入っている団体がUAAAに入りたいと言っている。かつてはUIAA加盟団体は自動的にUAAA加盟となっていた(神崎顧問)のであるが、労山は来年の理事会で討議すべきと言う立場である。ネパールのZimba曰く、いつも似たような件で採める。早く定款を作り規程を徹底させるべきとのこと。

(2) 三国合同レスキュー

今回、CMAが開催国の韓国に来られなかったことで、今後どのようにすべきかを関係国で話し合った。CMAは予算のこともあり、ここ2、3年は参加出来ないとのことで、技術交流も情報交換も出来ず、中止にしようかと提案したが、韓国曰く、モンゴルが勉強したっている、とのこと。結論は出なかった。

2-4 来年の予定

春の理事会は中国・成都、秋の総会はカトマンズとなった。(記 小野寺 齋)



広島山岳平和祭「平和サインボード」 国際ネパール山岳博物館に展示除幕式

昨年、11月23日にアジア山岳連盟創立20周年記念事業として、国際登山界から「平和」を祈願する広島山岳平和祭が開かれ、外国から約80名、日本山岳協会、日本山岳会、日本勤労者山岳連盟、HAT-Jの自然保護委員はじめ山岳関係者350名が平和宣言都市広島から世界平和を提唱し、約畳一畳ほどの藍染の布に平和を願いそれぞれにサインを書いてもらいました。

この度、ネパール山岳協会のご厚意でボードに装飾され、国際ネパール山岳博物館に展示してもらいました。その展示除幕式が2015年9月24日に李仁禎(リ・インジョン)アジア山岳連盟会長と開催国として神崎忠男日本山岳協会前会長、サンタ・ラマネパール山岳協会副会長はじめ山岳関係者の出席のなか、広島山岳平和祭での平和サインボードの展示除幕式が行われ、平和を願いサインした自分の名前が読めるスペースに展示されました。

ネパールのポカラを訪れた方には、ぜひ、国際ネパール山岳博物館を訪れて、自分のサインの確認に合



平和ボード展示

わせ、さらなる平和を祈っていただければ幸いです。

関係各位に深く感謝し、心から御礼申し上げます。

(記 神崎 忠男)

税額控除制度認定法人へ

本協会は、11月20日に内閣府より税額控除制度適用法人として認定された。

今回交付された税額控除に係る証明書の有効期間は、平成27年11月20日から平成32年11月19日まで。

税額控除制度は、従来、公益社団法人及び公益財団法人(以下、「公益法人」)への個人からの寄附金については、所得控除制度が適用されていたが、平成23年6月より、公益法人への個人からの寄附金について、寄附文化の醸成を図るため、税額控除制度が導入された。税額控除は、寄附金額を基礎に算出した控除額を、寄附者に摘要される所得税率に関係なく税額から控除するため、適用されている所得税率が低い者にとって特に減税効果大きい。税額を算出した後に、寄附金額を控除するため、小口の寄附にも減税効果大きい。

(寄附金額－2,000円)×40%の額を税額から控除される。

神崎顧問にピオレドール賞

11月6日(金)に第10回アジア・ゴールデンピッケル賞の授賞式が韓国ソウル市のヤンジェンドンA Tセンターで行われ、神崎忠男顧問が「ピオレドール・アジア生涯功労賞」を受賞された。

フランスの国際的な「ピオレドール」賞は、その年の卓越した精鋭的登山に贈られる賞である。そのアジア版「ピオレドール・アジア」は韓国の月刊山岳誌「人と山」が制定して今年で10年になる。本年度は、日本と中国の2登山隊がノミネートされたが、審査の結果、規定に届かず、該当者無しとなった。それに替わって「登山界生涯功労賞」という賞を設けて、大韓山岳連盟会長でアジア山岳連盟会長の李仁禎(リ・インジョン)氏と神崎顧問が受賞した。



授賞式

「山の日の歌」の歌詞を募集

締め切り
迫る!

全国「山の日」協議会は来年8月11日に誕生する祝日「山の日」を記念した歌の歌詞を一般から募集しています。総合プロデューサーは作曲家の船村徹さん。来年春以降、楽曲として完成させる予定です。

封書またはインターネットからご応募できます(はがき不可)。800字以内で未発表作品に限ります。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、下記までお送りください。

応募先 〒100-8051(住所不要)毎日新聞社「山の日の歌」募集係
<https://www.mainichi-ks.jp/form/yamanouta/>

★最優秀賞2編＝各50万円、優秀賞2編＝各10万円

著作権は全国「山の日」協議会に譲渡(著作権利用料は山の安全・保全活動などに活用)

※お預かりした個人情報は、応募内容の確認や受賞のご連絡など本事業の運営に関する目的でのみ使用します。

締め切り
2015年
12月31日
必着

特別協力/毎日新聞社 協力/下野新聞社 後援/(株)共同通信社

お問い合わせ/毎日新聞社「山の日の歌」募集係(毎日企画サービス内)

TEL:03-3212-2273(土日祝日および年末を除く10時～17時)



ネパール大地震救援募金の第1次募金報告

4月25日に発生したネパール大地震とその余震により、ネパールの各地で甚大な被害が広がりました。この大震災で被災されたネパールに対して本協会を含む、日本の主要山岳6団体(日本山岳協会、日本山岳会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤ協会、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト)では、緊急協議を行い、ネパールにご縁のある方々や団体からの義援金を募るべく「ネパール大地震救援募金委員会」を立ち上げ、募金活動を展開して参りました。

第1次募金締め切りの10月31日までの募金総額は、25,591,294円(内本協会分は189件で5,540,600円)となりました。

主要山岳6団体では、これらの募金をどのようにネパールの被災者にお届けするか協議を重ねた結果、特に被害の大きかった「ランタン谷」と「ロールワリン地方」へ支援することにしました。

1949年に訪れた英国の登山探検家H. W. ティルマンが「世界で一番美しい谷」と賛美したランタン谷では、人口の4分の1にあたる178名が亡くなり、100名以上の外国人旅行者の命が奪われました。村は壊滅し、現状どこから復興にあたればよいのか手探りの状況です。ネパールと日本の研究者が協力して状況把握と新しい村の候補地の検討が始まり、カトマンズの避難施設では、村の若者たちが「世界で一番美しい村」を造ると声を上げ始めております。このランタン谷の復興に尽力しているのが日本のNGO団体「ランタン・プラン(代表・貞

兼綾子)」です。

一方、ロールワリン地方は、エベレスト登山をはじめとするヒマラヤ登山隊に多くの優秀なシェルパを輩出している村です。村民は未だに仮設のテントで生活しておりますが、村民の総意で、復興の優先順位の一つは2つの小学校の再建という結論となりました。主要山岳6団体は、この2つの小学校の再建費用全額を支援することにしました。これによって秋からペディンとシミガオンでそれぞれ小学校の建設がはじまっています。

集まった募金の中から、取り敢えず第1回目としてランタンとロールワリンの支援に各500万円ずつ贈呈することにし、8月6日に贈呈式を行い、代表して「ランタン・プラン」の貞兼代表に目録が渡されました。

「ネパール大地震救援募金委員会」では、当初取り決めの通り、10月31日をもって第1次募金を一旦打ち切り、会計報告、贈呈報告等を各団体の機関誌等で公表することにしました。

第1次募金の第2回目贈呈は、ランタン・プランとロールワリンの学校建設費にそれぞれ500万円ずつ追加贈呈し、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト(HAT-J)とNGOカトマンドゥ(代表・安倍泰夫)にそれぞれ100万円を贈呈することにしました。NGOカトマンドゥは、1990年から長年に亘ってカトマンズの北方ヌアコット郡内で植林活動されているNGO団体です。

ランタン及びロールワリンに限らず、ネパールの被災地にはまだまだ復興支援が必要です。引続き11月1日から平成28年3月31日まで第2次募金を行いますので、ご協力のほど宜しくお願いします。(記 尾形好雄)



シミガオン学校建設予定地(学校跡地)



建設資材と崩壊したゴンパ。
背景ガウリシャンカール

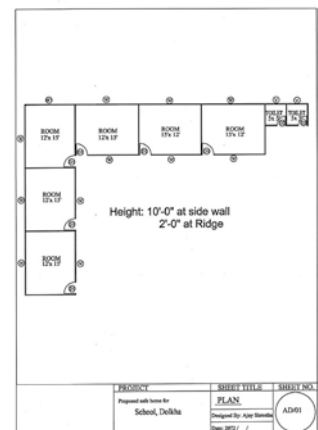


ゴンガール(中国ダム建設事務所)



学校敷地(前庭)。
震災直後はヘリポートとなった

【シミガオン学校完成予定図】





平成27年度11月(27年11月)
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成27年10月29日(日)

●連絡部:18時~19時40分

●常務理事会:19時45分~21時

場所 岸記念体育館会議室

出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・
亀山各副会長、小野寺、西内、森下、京
才、瀧本、中瀬各常務理事、中島監事、
増山・相良理事、西原・小日向委員長
委任 仙石・水島常務理事、澤田国際
委員長、山本競技技術委員長、松隈自
然保護委員長、角田AD委員長
(21名中15名出席)

1. 議事

- (1)平成27年度10月常務理事会議事録の承認について
異議なく承認された。
- (2)第3回理事会議案について
議案第2号に表彰規程、その他報告に「スポーツクライミング五輪種目化に関わる会長諮問委員会の設置について」の2項目を追加することで承認。
- (3)平成27年度上半期事業経過報告(案)について
國松副会長が作り直して理事会で報告する(監事の指摘で税額控除申請中も入れること。)ことで承認。
- (4)平成27年度上半期会計報告(案)について
監事の指摘で、正味財産増減計算書の前年比は3月でなく、9月にする。委託費と助成金の区別が曖昧になっている。予算に合わせて区分けする等を訂正して報告することで承認。
- (5)平成27年度第1次補正予算(案)について
監事の指摘で今回補正額に付け加えて前回予算額も併記することで承認。
- (6)平成28年度事業方針及び予算編成(案)について
國松副会長が作り直して理事会に提出することで承認。
- (7)就業規則・給与規程・退職金支給規程、アンチ・ドーピング規程の改定(案)について
給与規程において、給与表は削除する。表彰規程改定が追加され、都道府県岳連(協会)会長職を歴任した方は在籍年数に関わらず表彰を受ける資格を追記。で承認。
- (8)アジア選手権の選手派遣について(11/20(金)~22(日) 中国 寧波)
下記選手派遣が承認された。
<リード> F:小林由佳, 野口啓代, 大田理裳, 田嶋あいか, 義村萌 M:是永敬一郎, 中野稔, 高田知堯, 羽鎌田直人, 野村真一郎
<ボルダリング> F:野口啓代, 野中生萌, 田嶋あいか, 戸田萌希, 大田理裳 M:堀創, 藤井快, 杉本怜, 植崎智亜, 渡部桂太
<スピード> F:大田理裳, 野中生萌, 野口啓代 M:是永敬一郎, 羽鎌田直人, 杉本怜, 植崎智亜
- (9)全日本パラクライミング選手権について
小日向委員長より全日本パラクライミ

- ング選手権大会の開催提案があり、予算通り行うことを条件で承認された。
- (10)スポーツ指導者関係規程・規約の改定について
添付の資料に基づき瀧本常務理事・指導委員長より説明があった。
ACは今まで通り山岳指導員でよいが、SCはクライミング指導員ではなく、スポーツクライミング指導員にすることで承認。
 - (11)審判員昇級の承認について
C級→B級への昇級:武井浩(愛媛)・永井敏明(愛媛)、以上2名を承認。
 - (12)報告事項
ア 平成27年度上半期山岳共済会報告
尾形副会長から資料に基づいて説明があった。
イ 平成27年度上期業務執行理事職務執行報告
理事会当日に資料配布して補足説明をする。
ウ UIAA/UAAA総会報告
小野寺事務局より口頭で報告があった。
エ 平成27年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)について
尾形副会長より、応募者が50名近くになったことの報告があった。
オ 第54回全日本登山体育大会報告
尾形副会長より資料に基づいて報告があった。
カ ネパール募金山岳6団体打ち合わせ報告(10月22日分)
尾形副会長より報告があった。主にJAC約1900万円、JMA約500万円集まっており、既にランタン、ロールワリンには寄付をしており、残りは1113万円程度。10/31に1次募集を締め切り、2次募集は11/1~3/31の予定。各団体の機関誌に経緯も含め発表することになった。
キ 新春懇談会特別表彰の候補者推薦依頼について
表彰規程の一部改定があり、次の理事会を経て各都道府県に通知する。
ク マイク・リベッキ講演会について
資料に基づいて小野寺事務局長から報告があった。
ケ 第65回日本スポーツ賞候補者推薦
世界ユース選手権で金メダルを獲得した緒方良行氏を推薦することになった。
コ 第2回ルートセッター研修会について
森下常務理事より資料に基づきルートセッター研修会を全国高等学校選抜クライミング選手権大会時に行うとの報告があった。
サ 競技部追加報告
森下部長よりルートセッター管理台帳について状況を各都道府県に通知した。四国と九州の一部が未整理とのことであった。
小日向委員長より今後は、日体協コーチ資格保持者の養成が必要との報告があった。
西原競技運営委員長より3つのブロックでアンチドーピングの講習を行った、と報告。
小日向委員長よりイタリア、フランスで行う予定の強化合宿について選考方針の説明があった。

2. 後援、協賛等の依頼について

- (1)アイスクライミング・プレチャンピオンシップ大会(ミレーカップ)後援名義

- 使用の依頼について
資料確認の後、異議なく承認された。
- (2)「2015毎日スポーツ人」賞候補者推薦について
残念ながら本年の該当者は無し。
 - (3)「山の安全と楽しみ全国大会」後援名義使用の承認について
資料確認の後、異議なく承認された。
 - (4)2015年度ミスノスポーツメントール賞候補者推薦について
資料確認に留まった。
 - (5)「比婆山国際スカイライン」の後援名義使用の承認について
異議なく承認された。
 - (6)第36回登山医学学術集会后援名義使用の承認について
資料確認の後、異議なく承認された。

3. 専門委員会動静

(10月9日~10月27日)

[報告]

- (1)国際委員会 10月13日(火) 出席者 10名 委任 4名
ア)報告
●BMC冬の募集
●ロシア女性クライマーズミート下見
来春4月末来日予定
●平成28年度総会兼海外登山遭対研(京都岳連主管)は、6月11、12日(土、日)京都府立ゼミナールハウス予約済み
イ)協議事項
①海外登山懇談会について
●11/19(木)、マイク・リベッキ講演会(クライマー、探検家、アスリート)
②国内外に向けてのHP案について
コンテンツ案、ページ構成案ともに概ね了承。
(2)自然保護委員会 10月15日(木) 出席者 15名、委任 名
ア)議事録確認
①平成27年8月度月例自然保護常任委員会議事録
②平成27年9月度月例自然保護常任委員会議事録
イ)報告
①山岳団体自然環境連絡会(7月24日 於: 労山事務所 松隈 参加)
●環境省懇談会(野生生物課との懇談会開催を計画)
●次回 10月30日予定
②登山月報掲載記事出稿
③公益信託自然保護ボランティアファン
ド投稿記事出稿 2万部作成 10月15日入荷、日本山岳協会分 4,000部
ウ)審議
①第39回自然保護委員総会の運営について
②第4回関東地区自然保護交流会の開催について
●日程:10月31日~11月1日 日立市会瀬青少年の家にて42名の参加を確定(茨城13、栃木7、群馬3、埼玉5、千葉1、東京6、神奈川4、山梨1、長野2)、神峰山へはマイカー分乗にて移動。解散地は日鉱記念館駐車場に変更、各都県の自然保護活動情報・意見交換では交流の意味から参加者すべての発言を期待する。
③自然保護指導員研修会
●日程:11月7日 オリセン セ402
④自然保護委員会プロジェクトについて(次回見送り)
⑤山岳団体自然環境連絡会における 環境省野生生物課との懇談会
11月27日(金) 開催:松隈、堀江、廣田、

- 岩崎らが出席
- 情報交換・連絡事項
- ①ライチョウ会議 11月24日～25日(25日松隈参加予定)
- ②「山の安全と楽しみ」全国大会 11月8日～9日 黒部市にて
- ③ 山岳地におけるストックの使用について(小林委員)
- (3)選手強化委員会 10月16日(金) 出席者11名
- ア)2020東京五輪対応について
- イ)2016日本代表チーム運営について
- 2016代表選考について
- 来期の目標、世界選手権の対応
- ウ)強化代表スタッフ・選手合同ミーティング(12月)について
- エ)競技者育成プログラムについて
- オ)来期委員会について
- カ)JOCアスリート専門部会、アントラージュ専門部会合同フォーラムについて
- キ)派遣経費について
- ク)2016日本代表ユニフォームについて
- ケ)パラクライミング:2016 WCHPARIS
- パラ国内の選考大会について
- コ)アジア選手権派遣選手について(前掲議事記載の通り)
- (4)財政委員会 10月19日(月) 出席者5名
- ア)平成27年度上期会計報告について

- イ)平成27年度第一次補正予算案について
- ウ)平成28年度事業方針及び予算編成案について
- エ)五輪対策財源計画について
- オ)税額控除申請状況について
- カ)平成27年度上期山岳共済会会計報告(5)遭難対策委員会 10月28日(木) 出席9名
- ア)レスキュー講習の講師の決定
- 受講生は42名以上は増やさない
- イ)平成28年度総会について
- 総会の日程は6/25-26、場所は未定。
- ウ)夏山リーダーを開設について
- 安全講座とその上級コースを受講する。
- 夏山リーダーと山岳指導員の違いはロープワークと冬山がない。
- エ)長野県条例制定の委員派遣の依頼について
- 西内委員長に出席依頼があった。
- オ)救助技術高度化検討会の報告
- カ)平成28年度全山遭について
- 7/8、オリンピックセンター
- キ)指導・遭対合同研修会について
- 8/20～21を予定
- (6)医科学委員会
- ア)五輪種目に採択された際にNFとしての日本山岳協会に要求されるMedical Supportについて
- 国際陸連・日本陸連医事関係者との情報交換会を行った。(10/5)
- イ)医科学委員会として必要なこと
- JOCや組織委員会と連絡を取る
- 陸連や水泳連盟など大きなNFにMedicalの運営につき教を乞う。
- 小さな規模のNFにほんとのところを聞く。

- 4. 日誌(10月8日～10月31日)
- (1)第54回全日本登山体育大会・宮城大会 10月9日(金)～11日(日) 於:宮城県・栗駒山周辺 八木原会長、尾形・高橋副会長、仙石常務理事
- (2)平成27年度全国参加会 10月9日(金) 於:栗原市みちのく伝創館 八木原会長、尾形・高橋副会長、仙石常務理事
- (3)神奈川県オリンピック・パラリンピック担当宮越局長表敬来局 10月14日(木)
- (4)美瑛市東京五輪キャンプ招致担当、宇野総務理事、深尾主査表敬来局 10月15日(木)
- (5)IFSCボルダリングWC実行委員会 10月17日(土)13時～ 於:岸記念体育会館 森下競技部長、山本、小日向各委員長
- (6)スポーツ庁発足記念スポーツニッポンフォーラム 10月20日(火) 於:KKR東京 八木原会長、尾形副会長
- (7)加須市表敬訪問 10月21日(水) 於:加須市役所 八木原会長、森下競技部長、中瀬常務理事(高体連・関連)、小日向、西原各委員長
- (8)ネパール大地震救援募金委員会 10月22日(木) 於:スポーツマンクラブ 尾形副会長
- (9)UIAA/UAAA理事会・総会 10月20日～26日 於:韓国 神崎顧問、国澤顧問、八木原会長、小野寺事務局長
- (10)日本スポーツ振興センター査察 10月27日(火) 於:岸記念体育館 尾形副会長、小野寺事務局長
- (11)スポーツクライミングアウトドアヴィレッジカップ2015 10月31日(土) 於:森のアウトドアヴィレッジ 森下常務理事

寄贈図書

寄贈本	木下 喜代男(岐阜県山岳連盟)	「飛驒の山とある日」木下喜代男 著
雑誌	北見クーラカンリ山岳会	「夏山登山教範」山岳会北見クーラカンリ編監修元日本山岳会副会長 芳賀孝郎
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.968 2015 12月号
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.822 2015 12月
	NPO日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol. 49
	福岡山の会	「せふり」No.371
	中華民国山岳協會	「中華山岳」249
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第581号
	横浜山岳会	「月刊山」1001号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.451
	(財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」2015.12 2016.1
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCニュース」第528号
	NPOフリークライミング協会	「Free Fan」# 072
	NPOフリークライミング協会	「安全BOOK4」
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」Vol. 22
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」特別号
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」11月号
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol. 270
	茨城県山岳連盟	「創立50周年記念 思い出の山 これからの岳連」
	La rivista del Ciub alpino italiano	「Montagne 360」november2015
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第415号
	長野県山岳総合センター	「所報」第69号
	(公財)日本体育協会	「スポーツニュース・フェアプレイニュース」2015年11月16日号
	東京野歩路会	「山嶺」No.1029
	FEEC	「VERTEX」NUM262
	(公社)日本山岳会	「山」No.846
	モンベル	「OUTWARD」No.69 WINTER2015
	中国登山協会	「CHINA OUTDOOR 山野」総207期
	(公財)東京都スポーツ文化事業団	「スマイルスポーツ Vol. 64」
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第321号
	(公社)日本山岳会自然保護委員会	「木の目草の芽」第119号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.672
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・フェアプレイニュース」10月26日号

編集後記

今年もカレンダーが1枚になりました。新連載「山の日」制定記念一ふるさとの山に登ろうーは順調に掲載中、賛同し寄稿いただいた各ブロック担当者に感謝致します。祝日法施行日まで後半余り、来年から該当ブロックの皆様には原稿の協力を宜しく願致します。(広報担当 水島彰治)

登山月報 第561号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成27年12月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和田峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882

ユージンロッジ安全管理 TEL:042-687-4011

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 陣馬高尾ムーンナイトトレイルレース実行委員会
- 峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「がくじん岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、「岳」を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすりめです。

購読割引 **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊
8,160円 (+税) → **7,480円** (+税)
(税込8,812円) (税込8,078円)

1年間で680円
1冊分無料



岳人オリジナル
手ぬぐい & ペーパーナイフ



1月号
12/15発売

「岳人」2016年1月号

【特集】ニッポン開山物語

【好評連載】夢枕 獺「神々の山嶺」創作ノート
＜最終回＞／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」／石川直樹「まれびと」ほか

本体価格 680円
★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

◎ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp>

◎お電話で (受付後に振込用紙をお送りします)
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



7/24の保険

すまいの保険

ケガの保険

三井住友海上の安心

GK

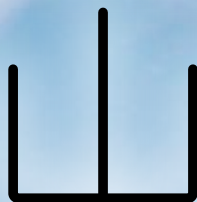
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8
月
11
日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます